

化学調節技術の普及度

いわゆるケミカルコントロールに関する試験研究については、とっつきやすいとい点もあって、果樹関係の分野においても広く行なわれるようになってきたが、ここで考えなければならぬことは、生産農家への普及問題であろう。果樹栽培に関するこの種の技術の中で、普及および定着度と経済効果の面からみて最たるものは、ブドウのジベレリン処理であろうが、そのほかの技術については必ずしも満足すべき普及実績をあげているとはいえず、摘果剤などもその一例と考えられる。もっともこの場合は、実施にあたって一種の経済的危険性を伴うという理由もあるが、やはり効果に今一步の安定性を欠くことが大きな理由であろう。中には実用化の判定がくだされておりながら、ほとんど使われていないものもある（ほかに適当なものがあるために使われないのであれば話しは別であるが）。試験場段階で目鼻のついた技術については、普及方法を検討するとともに、普及状況をはあくする必要がある、特に全国的な状況を統計資料の一環として調査作製することが望まれる。また普及に移行しない技術（というよりは技術化しない方法）については、その理由を調べることもたいせつであるし、興味もある。いずれにしても、現在各地で数多く行なわれている試験が、試験研究には結果的にみた場合のむだが常につきものであるとはいえ、試験場内における単なるマスターベーションに終わらせることのないようにしたいものである。

（農林省園芸試験場果樹部長 千葉 勉）

目 次

麦のばらまきと雑草防除

1. 岡山県における麦類の省力栽培
導入の経過 2
2. 全耕全層まき栽培 2
3. 不耕起ばらまき栽培 5
4. 今後の課題 7

岡山県立農業試験場作物部

大 森 信 章

韓 国 管 見 (4)

韓国の野菜生産（つづき）

- (5) 主要野菜の価格と変動 10
 - (6) キ ム チ 11
 - (7) 特 需 野 菜 13
 - (8) 野菜の加工 14
- 韓国の野菜に関する試験研究機関 14
- 韓国の野菜生産における今後の問題 15
- おわりに 17

農林省園芸試験場野菜部長

西 貞 夫

昭和46年度秋冬作そ菜・花き関係

- 除草剤、生育調節剤試験成績概要 18

農林省園芸試験場野菜部長

西 貞 夫

- 新登録除草剤一覧 32

農林省農政局植物防疫課